

〇〇専務への弔辞

(社長より)

ここに社葬をもちまして、故〇〇〇君の葬儀を執り行うに当たり、社員一同になり代り、長年当社のために刻苦されたことへの謝意と、久しきご交誼に対する絶ちがたき惜別の意を述べさせていただきます。

実は、私が〇〇〇君の訃報を受けたのは、社用のためヨーロッパ旅行中でありました。驚いて急遽、予定を繰り上げ、帰国の途についたのでありますが、空路チューリッヒを発つて、白銀のアルプス連峰がくっきりと機窓に見えてきた時には、かつて〇〇〇君と共にこの風景を眺めたことが、まざまざと脳裏に浮かんで来て、ひとり涙を禁じ得ませんでした。

〇〇〇君は、語学力にすぐれ、洗練された国際人として、どこの国へ行っても、一流の紳士として遇される、品格の持主でありました。さらにスポーツから、美術品のコレクションまで、その趣味の広さは、だれもが認めるところです。

思えば〇〇〇君とは、わが社がヨーロッパへ進出するための基礎作りに、ともに手を携えて、その苦勞を分かちあった仲間でもあります。

戦後日本の商社が海外へ雄飛する先鞭を、わが社が付け得たのも、〇〇〇君という人材あつてのことだといつても、けっして過言ではないでしょう。また、海外へ赴く後輩たちにとって、外国事情に詳しい〇〇〇君は、まことに頼もしいアドバイザーでもありました。

現在、日本の商社は国際的に、大変難しいところへたちいたっております。かかる折に、貴重な水先案内人をなくしてしまったことは遺憾の極みであります。いかなる国情の差があるとしても、あくまで人間としての信頼関係に基づかなくてはならない、という〇〇君の信念を、どこまでも活かしていくように、後に続く人々にも認識を新たにしてもらおうつもりであります。

平成〇年〇月〇日

株式会社 〇〇〇〇

取締役社長 〇〇〇〇